

## 理事長の挨拶

## 昨年の回顧と新年の抱負

岡野 栄之

一般社団法人・日本神経化学会・理事長

皆さま明けましておめでとうございます。2022年が皆さまにとって良き年でありますように心から祈っております。

2021年は、国内外の世界情勢だけでなく、本学会にとっても、歴史に残る大きな1年であったと思います。開催の可否については様々な議論と懸念がありましたが、コロナ禍の緊急事態宣言下にも関わらず、東京オリンピック2020が行われ、大過なく大会が運営されたばかりでなく、日本選手たちは、史上最高の成果を出し、ある意味大成功の内に終了いたしました。選手たちの頑張りに、どんなに元気を貰ったことでしょうか！そして秋には一旦収まったかに見えたCOVID-19も、再びオミクロン株というちょっと常識では考えられないような変異株の出現により、再び猛威を奮っています。改めて、人類と病気の戦いは無限であると思われ知らされました。しかし、このCOVID-19のパンデミックを経験することにより、次のパンデミックが起きたとき、それをいかに医療崩壊が起きないように防ぐことができるか？如何に早く収束させるか？についてのノウハウを学ぶことが重要だと思っております。

さて、本学会ですが、2021年に小泉・前理事長の大きなご尽力により、ついに一般社団法人化致しました。2021年1月8日に一般社団法人日本神経化学が設立され、2021年11月18日の社員総会・理事会の決定に基づき、2021年12月1日に、新代表理事、新理事、新監事につき、登記変更いたしました。この一般社団法人化に伴い、本学会の社会的責任も一層大きなものになりますので、これ

まで以上に気を引き締めて学会の運営にあたりたいと思いますので、皆さまどうぞ宜しくお願い申し上げます。

2021年から始めております本学会の学術的な活動として、所謂Flagship Projectを立ち上げておりますので、少々ご紹介したいと思います。2021年未来戦略構想、重点分野とフラッグシッププロジェクトについてのワーキング・グループ(通称：フラッグシップWG)が立ち上がりました(グループ長：田中謙二(慶應義塾大学)、副グループ長：林(高木)朗子(理化学研究所))。このWGの意義と目的について、述べてみたいと思います。お気付きの様に、昨今の脳科学は飛躍的な進歩を遂げ、様々な脳の機能についての膨大な知見が集積され、多くの精神神経疾患についての理解が進み、少なくとも一部については治療が視野に入ってきています。その一方で、脳機能の全容解明には長く困難な道のりが続いておりますが、疾患の克服のためには、本学会が誇る幅広い学問分野の力を有機的・学際的・戦略的に結集する必要があります。そこで、本WGをハブとして、関連委員会や全学会員より広く意見を募り、議論を重ね、創造的イノベーションを誘発する素地を作り、その中より本学会のフラッグシッププロジェクトとして英知を結集しようと考えております。これにより、本学会の強みを生かした研究が益々の発展を遂げることを期待したいと考えます。

本WGを始めとし、新生・一般社団法人・日本神経化学会への皆さまの奇譚のないご意見・ご提言をいただけましたら幸いです。